

2 時間 26 分 20 秒あれば、42.195 キロも走れてしまう人がいる。自転車であれば尚の事、1 日に 100 キロ程度は可能と思っていた。現に与那国、石垣、西表では気楽に 5、時間も走れば簡単に 100 キロ以上になったのである。

クロアチアの北の都市リエカから、南の都市ドブロブニクまで約 600 キロ。まあ休みの日を入れても、1 週間だなど考えていた。ところが実に実に甘かった。クロアチアの大地は、アドリア海という甘い響きとは裏腹に、海岸沿であってもアップダウンの連続で、自転車には全く不向きなところなのであった。

初日でもう止めようかと思ったが、結局何とかドブロブニクまで漕いだ。下記は、その記録である。



	区間	移動距離 (km)	移動時間 (hr)	摂取水分 (litter)	たいへんさ (5 段階)	備考
1 日目	Rijeka ~ Senj	70	8	9.0	3	初日にははきついぜ
2 日目	Senj ~ Pag	75	10	10.0	5	長~いアップとダウン
3 日目	Pag ~ Zadar	50	5	8.5	2	アップダウンは少し
4 日目	Zadar ~ Sibenik	70	6	8.5	1	ぜんぜん平坦。楽勝
5 日目	Sibenik で休養					
6 日目	Sibenik ~ Split	80	8	9.5	3	なかなか登らせてくれる
7 日目	Split ~ Makarska	60	6	8.5	3	2 度目の山越えて感じ
8 日目	Makarska ~ Meum	80	8	13.0	5	今日はほとんど平坦無し
9 日目	Meum ~ Dubrovnik	75	8	11.5	4	徹底して上げ、そして下げ

たいへんさの参考。与那国 2、石垣 1、西表 1、屋久島 3、徳之島 2、八ヶ岳 4

辛かったことベスト 3

とか書いてみたが、10 個以上は絶対あるぞ。

まずアップダウンがひどい。夏だから仕方ないけどとにかく暑い。南に向かっているから、太陽もこちらを向いている。日陰がちっともねーな。切通やトンネルがやけに少ないぞ。何で風はいつも南風なんだ。それにしても交通量が多いなあ。しかし何でこんなに迂回するんだ。崖なんだからガードレールを付けてくれ。頼むからそんなにクラクション鳴らさんでくれ。このぼろ自転車！。み、み、水をくれ.....。

初日からこれだ

リエカを中心部を出て30、40分、チャリは順調に走っていた。造船所や製油所を過ぎた辺りから、道路は徹底した登りに豹変。下りなんか一切無し。きつい坂を登っては、緩やかな、やっぱり登り。で、またきつい坂。結局1時間近く、10キロ以上の坂道を登った。

海は遥か下に見える。

誰かに、『アドリア海はどうだった?』と聞かれようものなら、圧倒的な説得力と写真で、『そりゃもうきれいだったよ』と答えられる。何故なら、すごい登っているから、高いところから見る景色はやっぱりすごいのだ。

地図上では海岸沿なのだが、道路から下は急な崖になっている。砂浜なんてありゃしない。従って常に山道を漕ぐことになる。

しかしアドリア海って本当に海岸で泳げるところが少ない。これは意外だった。砂浜なんてほとんどありゃしない。あってもほんの小さな場所を皆でひしめき合うように寝転がっている。日本並みに混んでいるのだ。

辛ければ辛いほど、旅は思い出深くなる、なんてセリフを誰かが言ってたが、思い出なんて深くなくて良いから、一刻も早く開放されたかった。恐らく300~400メートルぐらいの高さまで一気に登ったに違いない。屋久島も300メートルを一気に上るが、今回は荷物が重たくて、風も強くてなかなか辛かった。ようやく山頂かと思い記念に写真を撮る。でもやっぱりまだ登り。ようやく山頂だと思い写真を撮る。でもやっぱりまだ登りだった、という連続。

そして今度は、その登りを一気に帳消しにする下り。だらだらの下りなら距離が稼げて良いのだが、せっかくの位置エネルギーをブレーキによって消費せざるを得ない様なイヤ~な下り。

製油所があったせいかタンクローリーがやたらと多くて怖い。大型バスも通る。すぐ近くを通ると、風で吸い寄せられそうになる。

道路沿いに墓や花束があるのが妙に気になった。事故死だろう。信号無しの80キロ制限だから、実際には100キロ以上で走っている車が多い。ヨーロッパにしては自転車の地位が低いのであった。

一気に下って完全にゼロメートルまで来た。

そしてそこからまた登り。ふと気づくと、さっき通ったところが入り江の向こうに見える。すごく近いぞ。橋を架ければこんな遠回りせずに済んだのに。10キロ近くロスしていることになるなあ。

ふと気がつく左ペダルがぐらついてきた。だましだまし走ったが、さらにぐらつきが大きくなって、根元から外れそうだ。



通りには、こんな街が多い。その結果、道が街を迂回する、つまり山沿いを通ることになってきついのだ。

数日前に買ったのもうこれだ。このボンコツめ。

しかし神の救いか日ごろの行いか、もうヤバイって時にガソリンスタンドが。

早速工具を貸してもらおうとお願いすると、『無い』と冷たい一言。意地悪だと思った。マイナスのドライバーさえないという。

ペダルの根元をよく見ると、六角形のナットがはまっている。指で簡単に動くほど。精一杯指で締めつける。で、再出発。しかし、あっという間に元の木阿弥。直ぐにぐらついた。

コリヤ駄目だ。まだリエカを出発してから20キロぐらいしか走っていない。このまま600キロを走れるとは思えない。絶体絶命のピンチなり。

と思うと、神の救いか日ごろの行いか、次のガソリンスタンドがある。

で、またもや『無い』と。

どうもクロアチアでは、ガソリンスタンドは街のホットステーションじゃないみたいだ(ありゃ、ローソンか)

だましまし走って何かの工場があったので入って相談してみた。一人が工具を持って来てくれたがレンチが合わない。安すぎる自転車の為か特殊なものの様だ。一体どこで作ったんだ？

ただこの先に車の修理工場があるという。すごい下りなので嫌だったが泣く泣くいってみる。

その修理工場は休みだった。

いよいよお手上げか、と思ったら、工場の奥から若い女性がたまたま出てきた。お願いすると、オヤジを呼んで来てくれ、お店を開けてくれる。

レンチはちょっと特殊なものの様だった。さんざん探してもらって、そして完璧に締め付けてくれた。ナットがすごく回るぞ。相当緩んでいるみたいだ。初日から思いやられるぜ。

後ろからスイス人のチャリダーが来た。彼もドプロブニクを目指しているそうだ。彼の息も荒い。それにしても、自転車の多いはずのヨーロッパなのに、彼ぐらいにしか出会わないのは何故だろう。

途中の坂がとてもきつい。荷物があるせいか、以前行ったハヶ岳と同じくらい辛く感じる。途中で何度も休んだ。

クロアチアの宿

クロアチアはあまりホテルがないと聞いていた。たしかにホテルと書いてある看板は少ない。その代わり【SOBE】と書いてある道端の看板が目立つ。民家が部屋を貸し出しているのだ。自由主義経済になってそれぞれが稼いでよい、という事になって、たくさんの民家が外国人向けに部屋を開放しているみたいだ。

この季節、多くの外国人がクロアチアの沿岸に遊びに来ている。多くはイタリア人、そしてド



クロアチア語で【SOBE】とは部屋の意味。それ以外にいろいろな国の言葉で客引きをしている。

イツ人。だから夕方近くになると、自力で探すのが難しいほどどこも満室になってしまう。何しろ民家だから、その街の各地に散っている。家のどこかに【SOBE】と書かれたプレートが貼ってあったら、その家は部屋を貸している。でもその駐車場には、ユーロマークにIだのDだのと書かれた車がたいてい停まっている。どの家でも貸し出す部屋は1つか2つだから、もう満室なのだ。

だからコミッションを取られるけれど tourist office に行く事になる。するといろいろと電話してくれて、まだ開いている部屋を探してくれるのである。

料金は100~200クナ(1850~3700円)といろいろ。大体が2~3ベッドなので、人数で割ればその分安くなるが、一人旅なので高い。やむなし。

施設もその民家次第。地下室の様な暗い部屋もあれば、最高な景色を拝めるところもある。しかもテレビ付きだったりする。

夏だけど、夜は結構涼しくなってくるので、冷房がなくてもまあまあ何とかなる。

そして嬉しいのは、クロアチアの風呂には、タブがあってゆっくりお湯につかることができる。

初日は、いきなりハードな道のりで気温も高く、もう暑くて苦しかったので、早速水風呂に入ることに。

ひっとしたら熱中症の一手前だったかもしれない。体から熱がなかなか抜けなかったので、水風呂に30分もつかってしまった。それでも頭は熱いまま。蛇口から頭に冷たい水が掛かるようにしたが、なんだか冷たさをあまり感じない。危険だったかも。

あまりにすごい形相で宿に来た為か、宿のおばあちゃんが、冷たいジュースをペットボトルごとくれた。クロアチアの人々に救われた初日だった。

クロアチアの道

8日間を通して、一番高いところで、標高600メートル近かったと思う。

車とバスはビュンビュン飛ばしている。ヒッチハイクする旅人もいるみたい。確かにその方が楽だな。

道路表示には9%や10%と書いてある勾配もざらだ。

首都のザグレブは内陸だが、クロアチアの南北を通っている主要街道の為、ガソリンスタンドやショップは街ごとにある。しかし街が定期的にないのだった。



アドリア海の島も、やはりいきなり坂道を登ることになる。200mアップの坂が続くとへとへとになる。

アドリア海にはクロアチア側に、多数の島が浮かんでいる。

島の方が楽かなと思って島づたいに南に下ってみたが、どうしてどうして島も山で出来ていたりする。

ある時も~う駄目、という時に、沿道でチーズを売っている人に水をもらった。

クロアチアでは、チーズが名産らしく、家庭で作ったチーズを沿道で売っているのだ。暑いので、チーズを冷やす為に、水をペットボトルに入れ凍らせて持っている。これを頂戴した時には本当に嬉しかった。

クロアチアの水道は硬水だが飲めるのだ。山が連なる国だからか、水道の水はやけに冷たい。



アドリア海という甘い響きとは裏腹に、見る光景岩ばかり。時々落石もあつたりする。

食べ物

朝食は、前日の夕方に買っておいたバナナとヨーグルト。

昼食はやはり買っておいたパンとチーズとハムが多い。夕食は街に着いてからビールとピザというパターンが多かった。これが一番安上がりなのだ(もう飽きたけど)。

それと欠かせないのがチョコレート。【この先 3 キロ登り】なんて無慈悲な標識があつたらチョコレートを一気ぐいしてから登った。

あまりにすごい坂を登った後は、コーラを買って飲んだ。恐ろしいことに 1 リットルのコーラを一気に飲めてしまうのだった(ビールなら楽勝だけど)。

また夜はワインとオリーブの実で一息つく。この瞬間がやめられない。

スイス人ブルーノ

初日にあつたスイス人のブルーノに、再びザダールという街で会つた。

お互いのコースと感想を言い合つて反省会をする。

二人とも結局は『クロアチアって自転車に向いてないね』つてことに。

彼は何と奥さんと子供二人を置いて旅をしているらしい。10月に帰国する。スイスでは、5週間の有給が取れるらしい。また数ヶ月の長い休みを取る場合には無給。例え4ヶ月休んでも元の職場に復帰できる会社が多いそうだ。それなりに経験を積んできたとみなされるらしい。

ヨーロッパで一番お勧めのコースを聞くと、オランダだという。もうたいへんな自転車大国らしい。常に自動車と自転車の道路がきちんと別れており、常に自転車が優先ということだ。

クロアチアとは随分違うぞ、と。

そのクラクションやめてくれ

海岸沿の山道は、主要街道といえども道が比較的細い。頻繁にクラクションを鳴らされる。

大体は次の3通り。

- (1)もうすぐ大型車で近づくから気を付けてね。
- (2)てめえ邪魔だ、どけ。
- (3)おおっ! そのクレイジーガイ、ガンバレよ

このうち、(2)と(3)の区別はあまりつかない。こっちは必死で崖のそばを走っているのに、後ろ

からガンガン鳴らされると、もうどうしようもない。ガードレールにバックをこすりながら走ること。でもそれは応援のクラクションだったりするからやっかいだ。

時々、対向車が対向車を抜き去る為に、こちらの車線に入って来る。その車が私にクラクションを鳴らすのはよくわかんないぞ、クロアチア人。

シベニックという街

ある大きな橋を渡ってシベニックという街に着いた。

ツーリストに行き、宿を探してもらおう。

この街はごみごみしていて、さらに宿もネゴの余地がなく一方的で、かつ高いので嫌な感じだった。一番安い宿で200クナ(3700円)。しかも徒歩10分だから自転車なら直ぐよ、と教えられ、その通りに行くと何と途中から階段。冗談じゃねーぞ。

回り道をして到着した宿は、しかし最初の印象とは反対に実に素晴らしいところだった。

坂道をイヤというほど登ってきたせいか、実に眺めの良い部屋。ここなら200クナでもいいだろう。ただあまりに素晴らしいのでカップルで来るべき部屋って感じだ。

溜まっていた日記と、溜まっていた洗濯と、溜まっていた疲れを一気に解決する為に、それともう一つ。オリンピックの開会式だ。ここには今があって、テレビが見れる。

本当は、既にかなりアテネに近づいているべきであるが、まだクロアチア中部ってのは情けない。ただオリンピックは2週間。まだ何とかなる。ここに2泊することにした。

この2泊目は、宿の人に直接交渉すると120クナ(2220円)だった。ツーリストは何と40%も手数料を取っていた。Too much!

故障再び

6日目50キロ近くで、自転車にブレーキが掛かる。何だか良く分からない。どうも車輪が歪んでしまったような感じ。

自転車をひっくり返して良く見ると、車輪が腰を振っている。モンローウオーク状態だったみたいだ。そう言えば、何となく嫌な音はしていたっけ。

リアバックにたくさん積めすぎたかな。もしかして、後輪だけでも100キロくらい掛かっていたりして。



クラクションを鳴らしバスが坂道を登っていく。どこにビーチがあるんだ、というような光景でしょ。



故障だらけのマイチャリ。ちょっと荷物を載せすぎか。安いのでサスペンションも今一つで、いつも尻が痛い。

いろいろ試したが歪みは直らない。

仕方なく、カッターで後輪のブレーキパッドをすべて削り取る。少しだけブレーキが掛かってしまうがこれで走ることに。とほほ.....。

しばらく走ると、今度は車輪の軸がずれて、ブレーキどころが完全にロックされてしまう事態に。モンローウオークがネジに影響を与えたみたいだ。車輪がはずれなければ何とか走る。しかしスタート時にペダルに力を入れると車輪がずれてロックしてしまう。もうソロリソロリと乗る。だから下りでないとスタートできない。もう何十回ロックしたことが。う~ん、辛いぜ。このボロチャリめ。

何軒かの店と民家にレンチもしくはスパナがないか聞いて回るが、一様に無いという。

ようやく探し当てた酒屋さんでレンチを借りて締めた。動く動く。何の事はない、ブタペストの店でちゃんと締めていなかったに違いない。やはりツーリングするならせめてレンチぐらいは持っておいた方がいいんだな。

その後は快調に走った。いや快調という割には自転車が変な悲鳴をあげて軽くブレーキが掛かっているのだが.....。

この日は2度のトラブルがあったものの、根性でクロアチア第二の都市スプリットを目指すことに。

遠くに巨大な都市が見えてくる。スプリットの様だ。街の様子も交通量も都市にふさわしくなってきた。3車線もあると、車もやけにスピードを出すなあと思っていると、そこは何時の間にか高速道路だった。歩道は当然ない。おっかなびっくりで走った。初めての体験だ。ようやく高速道路から脱出した頃、パトカーが3台も抜いていった。おお助かった。

3度目の故障

7日目辺りから、ペダル根元でコキコキという音が聞こえるようになった。少しずつだが、だんだんと騒がしくなってくるようだ。そういえばペダルもぐらついている。

再びペダル根元の六角ナットかと思い、やっと見つけた車の修理工場へ持ち込むが、六角ナットが問題なのではないと言う。今度はボールベアリングだそうだ。

『ここでは部品がない。この先のマカルスカという街にユーロバイクという自転車屋があるからそこへ行くといい』と教えてくれた。どのくらい先にあるの、と聞くと、『30キロ先』と....。

バルカン半島のくせに、やけに大陸的な回答である。

でもあれこれやってくれた上に、息子まで呼んで通訳してくれて、ありがとうおじさん。

ペダルが外れたり、ロックする訳ではないようなので、だましだまし進む事に。

クロアチアというところは、山がちな土地ゆえにあまり自転車が身近ではないと気がついた。そういえば、自転車に乗っているのは、地元の人ではなくて、ほとんどが観光客の様だ。キャンピングカーに積んできたものだろう。

街から街へは呪うようなアップダウンだが、一旦町に入ると、この沿道では常に港町なので、とてもきれいな風景が広がっている。多少は坂を漕ぐことになるが、街の中で自転車を漕ぐのはすごく楽しい。

自転車でマカルスカという街を散策する。ここはちょっと行くと 1700 メートル級の山がある。トレッキングに来る人もいるそうだ。確かに港から不自然なほど、いきなり高い山がそびえている。

教えてもらったユーロバイクという自転車屋に行ってみると、『こりゃ、駄目だね。フレームごと交換になるよ』とつれない。

『ドブロブニクまで持つかどうか微妙だなあ』とも言う。



マカルスカの街。直ぐそばにかなり高い山がそびえている。低地部分のごくわずかで、ひしめくように家が並んでいる。

ドブロブニクまであと 150 キロ。こうなったら、歩いてでも行ってやる。

ドブロブニク

最終日、メウムという街を、訳あって 6 時半という早朝から漕ぎ始める。

不思議な事に、今日はボールベアリングの調子が良い。相変わらずキコキコ、ガキガキ、ガギューと時々音がするが、毎回ではなくなった。ペダルのぐらつき感はある。

どうやらベアリングがより細かく破壊されたのではなかろうか。うるさくなくて好都合だ。

午後 1 時を過ぎて突然巨大な都市が見えた。やっとドブロブニクだ。

街の入り口にある 560 メートル以上ある橋を渡るとこの街を一望できる。

さすが【アドリア海の真珠】と言われるだけの事はある。すごくきれい。

やっとドブロブニクに到着した。

ツール・ド・クロアチア、約 600 キロ。一生忘れない。

つづく